

## インフルエンザの感染者が急増しています

大分県は、インフルエンザ患者の急増にともない、12月18日に警報を発表しました。大分大学においても12月中旬より学生のインフルエンザ感染者が急増しています。

インフルエンザは多くの場合、咳、鼻水、のどの痛みなどの上気道炎症状とともに、頭痛、筋肉痛、関節痛などの全身症状を伴う急な発熱で発症します。治療が遅れると肺炎などを合併して重症化する可能性もあり、抗インフルエンザウイルス薬による早めの治療が必要です。上記のような症状を認めた場合は、必ず医療機関を受診してください。予防接種をしていても罹患する可能性があり、高熱を認めない場合もあるので注意が必要です。

インフルエンザを予防するには「かからない」「うつさない」という意識が重要です。咳やくしゃみをした時に発生する飛沫にはウイルスが大量に含まれ、それを周囲の人が吸い込むことにより感染が拡大します。感染を拡大させないために、下記の咳エチケット（感染拡大を防ぐためのマナー）を守りましょう。

- ① 咳やくしゃみのあるときは、必ずマスクを着用してください。  
マスクは薬局やコンビニで市販されている不織布（ふしょくふ）製マスクが適しています。
- ② マスクを着用していないときはティッシュやハンカチなどで口と鼻を覆い、周りの人から顔をそむけてください。
- ③ ティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、他の人が触らないようにしてください。手は石鹸で丁寧に洗い流してください。
- ④ ティッシュやハンカチがない場合は、腕や袖口で鼻と口を覆ってください。手で覆うのは避けてください（例えば、病原体が付着した手でドアノブを触ると、ドアノブを介して他の人へ感染する可能性があります）。

現在、大分大学では、発熱や呼吸器症状（咳、鼻水、のどの痛み等）など何らかの体調不良を認める場合は大学への登学を控え、医療機関を受診し、結果を大学の公式ホームページから報告するようになっています。

[新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等への対応 | 国立大学法人 大分大学](#)

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の感染が明らかになった場合は、大学からの指示にしたがって、一定期間、登学を控えるようにしてください。